

月刊

2014

5  
月号

# みんぱく

特集

## 中国地域の文化

— その多様性と伝統の展開

多様性、歴史、そして文化の創造 塚田誠之

MAPシステム 野林厚志

自然環境に対応した生業 野林厚志

多様な民族楽器 伊藤悟

高床式住居の変貌 塚田誠之

おしやれ心がいっぱい 横山廣子

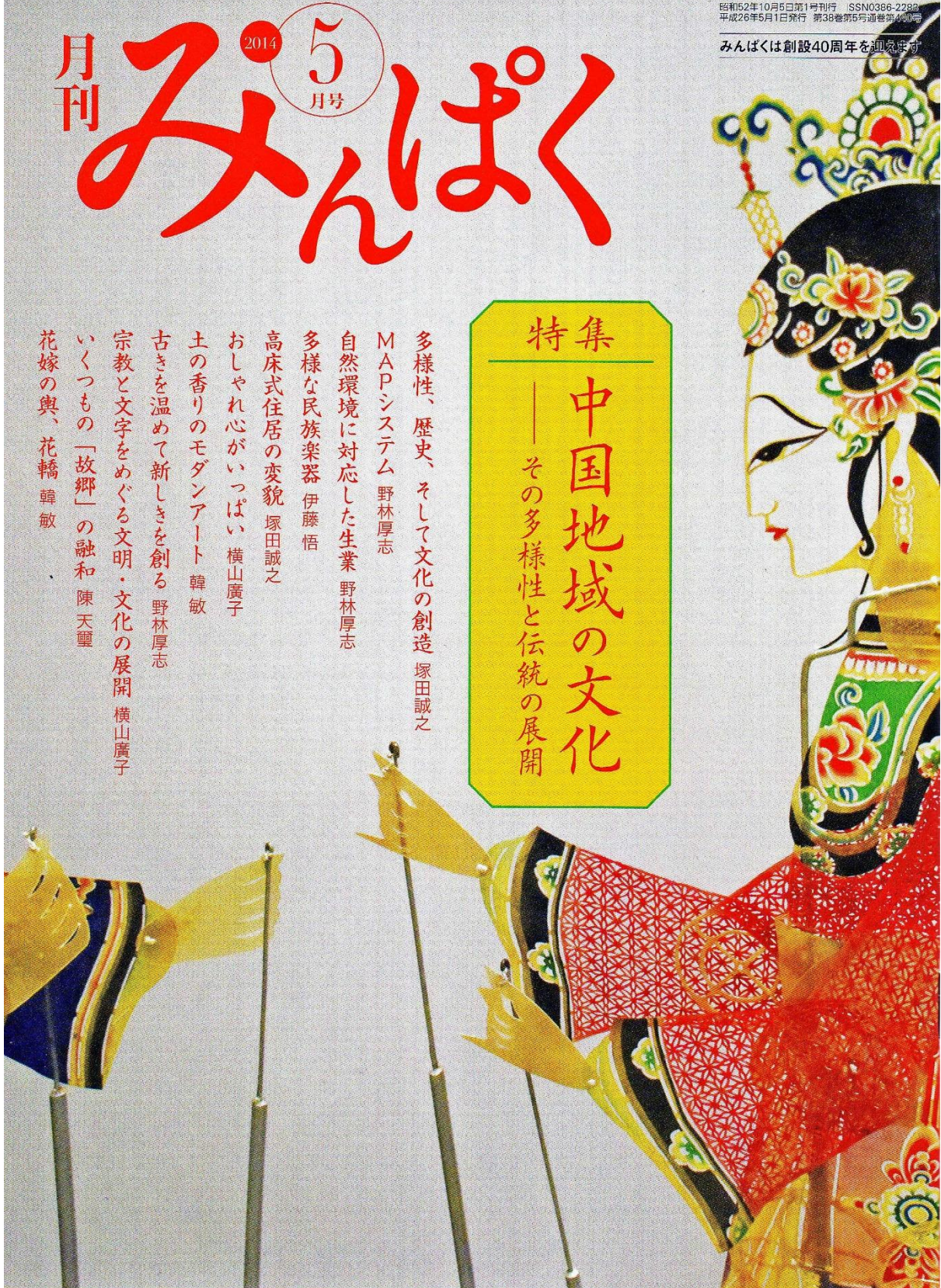
土の香りのモダンアート 韓敏

古きを温めて新しきを創る 野林厚志

宗教と文字をめぐる文明・文化の展開 横山廣子

いくつもの「故郷」の融和 陳天璽

花嫁の輿、花轎 韓敏



みんぱく 2014  
みんぱくフォーラム 2014

国立民族学博物館 創設40周年

The East Asia exhibition is new!!

# 東アジア展示が あたらしくなりました!!

朝鮮半島の文化

中国地域の文化

日本の文化「沖縄の暮らし」「多民族くニホン」

開館時間 10:00 → 17:00 (入館は16:30まで)

観覧料: 一般420円、高校・大学生250円、小・中学生110円

※観覧料割引については、ホームページをご確認ください。

休館日: 水曜日

無料観覧日: 5月5日(月・祝)、6月22日(日)、9月15日(月・祝)  
11月3日(月・祝)、関西文化の日(11月予定)

お問い合わせ 国立民族学博物館 広報企画室企画連携係 〒565-0811 大阪府吹田市千里万博公園10番1号

Tel 06-6878-8210 (土日夜を除く9:00~17:00)

[www.minpaku.ac.jp](http://www.minpaku.ac.jp)



国立民族学博物館

# メディア研究における 技術と芸術

街の中や家の中でロボットが活躍する日が必ずやってくるという信念で、人と関わるロボットの研究に二〇年弱前から取り組んできた。最初は、大学のキャンパスや建物内を歩き回る目を持ったロボットを作り、それから足は車輪だけでも、機械の頭や腕を持ち、いわゆるロボットらしい見かけを持った Robovie (ATR 知能ロボティクス研究所) と呼ぶ、ロボットを開発した。そしてその人間らしさを探求するために、人間に酷似したアンドロイドの開発に取り組んできた。

Robovie の開発当初から考えてきたことは、ロボットは新しいメディアになるということである。人が持つ多くの感覚機能や脳の機能が人を認識するためにあるということは、多くの認知科学的・脳科学的研究からも間違いの無いことだと思う。故に、技術が進歩すれば、人間の生活を支える日常の様々なもの人間らしくなっていく。たとえば、最近であれば、炊飯器や洗濯機は音声でその状態を伝えるようになっていく。人らしい姿形を持つロボットの最も大きな役割は、そのような人と関わるというメディアとしての役割である。荷物を運ぶや食器を洗うというような特定の作業においては、専用に設計された機械の方が効率的に作業をこなすことができる。

## 石黒 浩

プロフィール  
1963年、滋賀生まれ。工学博士。大阪大学基礎工学部研究科特別教授、ATR 石黒浩特別研究所所長。社会で活動できるロボットの実現を目指し、大学、研究機関、企業の枠を超え、分野の枠を超えてプロジェクトを推進する。人間そっくりの動作と外観をもったアンドロイドの開発者であり、人間とコミュニケーションする知能ロボットの研究者。近著に『人と芸術とアンドロイド』(日本評論社)。

しかし、人間と関わるには、人間の脳が自然に反応できる人間らしい姿形のロボットが必要になる。これまでのロボットの研究では、特定の仕事のためのロボット開発が中心で有り、人間と関わりながら、人間の役に立つという視点において、ロボットは研究開発されてこなかった。しかし、日常においてもロボット利用が進んできた今日では、人間らしい姿形で人間と関わるロボットの研究はさらに重要性を増してきている。

この人と関わるロボットの研究はメディア技術の研究であると同時に、メディア研究がそうであるように、技術と芸術の境界に位置する研究でもある。人間らしいロボットを実現するには、人間らしさとは何か？人間とは何か？について解っている必要があるが、その問いの答えに我々は到達していない。すなわち、人と関わるロボットの開発そのものが、その問いを探求することである。そう考えれば、メディア研究とは様々な手段で人間を表現し、人間を理解しようとする芸術と非常によく似たものであることが解る。科学や技術の先端における発明、発見では芸術的センスが必要になるといわれるが、新しいメディアの研究では、常に技術と芸術が同居している。

## 月刊 みんなく

5月号目次

- |    |   |    |  |
|----|---|----|--|
| 1  | エッセイ 千字文<br>メディア研究における技術と芸術<br>石黒 浩   | 12 | みんなく information                                 |
| 2  | 特集<br>中国地域の文化——その多様性と伝統の展開  | 14 | 文化遺産おもてつ<br>主役は人形なのか、人なのか？——ベトナムの水上人形劇<br>樫水 真佐夫 |
| 2  | 多様性、歴史、そして文化の創造<br>——「中国地域の文化」展示場 塚田 誠之   | 16 | 多文化をめぐって<br>カカオ産地は今——フェアトレードと歩んだ20年<br>鈴木 紀      |
| 3  | MAP システム 野林 厚志  | 18 | 味の根っこ<br>フラーフェル (後編)<br>菅瀬 晶子                    |
| 4  | 自然環境に対応した生業 野林 厚志<br>多様な民族楽器 伊藤 悟<br>高床式住居の変貌 塚田 誠之                               | 20 | 人間学のキーワード<br>マルチモダリティ<br>倉田 純平                   |
| 6  | おしゃれ心がいつばい 横山 廣子<br>土の香りのモダンアート 韓 敏   | 21 | 異聞逸聞<br>国境を越えて運営されるミュージアム<br>出口 正之               |
| 8  | 古きを温めて新しきを創る 野林 厚志<br>宗教と文字をめぐる文明・文化の展開 横山 廣子<br>いくつもの「故郷」の融和 陝 天望<br>花嫁の樂、花轎 韓 敏 | 22 | 制度の世界、世界の制度<br>インドネシアの法廷の表と裏<br>高野 さやか           |
| 10 | 集めてみました世界の(X)<br>揺りかご編  | 24 | 次号予告・編集後記  |

特集

# 中国地域の文化

— その多様性と伝統の展開



リニューアルされた中国地域の文化展示。

広大かつ多様な地理的環境によって培われた、さまざまな出自をもつ人びとの歴史と文化を、九つのセクションであらわしている。

中国地域の多様性、重層性を示すそれぞれの見どころを紹介する。

## 多様性、歴史、そして文化の創造 — 「中国地域の文化」展示場

塚田 誠之

民博 研究戦略センター

展示場に一歩足を踏み入れると、まず、カラフルな民族衣装を着用したおおくのマネキンが目にとまる。刺繍をほどこした上衣や銀製装飾品をまとった華麗なもの、長い上衣に毛皮を着用したものなど多様多彩だ。その脇には、大画面で人びとの生活の場面を見ることができる最新の装置、数かずの生業用具、民族楽器類、そして奥にチワン族の高床式住居の一部を再現した住居が見える。住居の次には絵画、観光土産といった大衆的なものから木彫・銀細工などの逸品に至るまで工芸品が並び、台湾原住民の刺繍をほどこしたあざやかな染織の衣装が見える。そのとなりには、さまざまな文字の掛け軸や経典が目につく。順路にそってさらに進むと、故郷の大陸から世界各地へ移住し、各地の文化に適応しながらも、竜舞・獅子舞や祖先祭祀など伝統文化を維持してきた華僑・華人のセクションがある。最後には、漢族の祖先の位牌や系図、花嫁の輿、婚礼衣装などが並ぶ。

九つのセクションをたぬくキーワードとして、多様性、歴史的連続性、文化の創造があげられる。まず、多様な自然環境のもとで生み出された多彩な民族の豊かな文化が示されている。大陸の少数民族や漢族、台湾の原住民といった諸民族、さらには華僑・華人が取り上げられている。生業につ

## MAPシステム

のばやし あつし  
野林 厚志

民博 文化資源研究センター



多様な自然環境、多様な民族文化。これらを中国地域の時空間で表現するための方法としてあらたに挑戦したのが、MAP (Mingpaku Anthropological Photologue) である。中国地域の文化を研究してきた民博の研究者が撮りためてきた写真を時代によって地図上に配置した、いわば写真の時空間データベースである。モニター上の地図や写真をタッチして選び、時代を絞り込むことで、地域の様子の変り変わりを画像で見ることが出来る。こうした画像表示アプリはすでにネット上にもあるが、MAPの特徴は衣食住、観光、移動、といった人類学に関連した

キーワードで画像をつなげるところにある。中国地域にかぎらず、民博の研究者は世界中でフィールドワークをおこなない、現地の様子を写真、音声、動画等で記録してきた。建築物や装いの変化、自転車から自動車へ、植生の景観、市場に流通している商品等々、画像から得られる情報は無尽蔵である。グローバル化や環境変化が急速に進んだ二〇世紀後半の世界の記録は、次世代に継承、共有するべき情報遺産としての価値をもつのである。MAPにはこうした情報を知覚化させる手法としての期待がこめられている。



いて、北部では小麦、南部では水稲が主食として栽培されてきた。装いについて、大陸北部や西部の寒冷地と温暖な南部とは様式に相異がみられる。宗教も中国三大宗教の儒教・仏教・道教だけでなく、上座部仏教、チベット仏教、イスラム教など地域によって多様で、また漢字以外にも少数民族のものにはさまざまな文字がある。

次に歴史的な連続性、伝統が目を惹く。とくに漢族のもので父系祖先祭祀が重視され、父系一族の系図を含む族譜が編纂され、祖先との関係性なかに自らを位置付けてきた。四合院模型や花嫁の輿からも伝統がうかがわれる。漢族は三大宗教を生み出し、自らの勢力の拡大とともに、漢字を用いて(程度の差があるものの)それらを周囲に広めて中華文明圏を形成した。ただし、今日それらの宗教は孔孟の礼教や老荘思想をそのままの形で墨守しておらず、伝統が歴史のなかであらたに創出されてきた点も見逃せない。

そこで第三に、文化の絶え間ない創造が注目される。工藝品は、毛沢東グッズをはじめ、時代の要求に応じて創造されてきた。台湾原住民族の衣装にもあらたな創造が見られる。高床式住居の居間にある電化製品からは、人びとの暮らしが現代化の影響を受けていることが明白である。伝統文化を継承しながら、他方であらたな文化が創出され続けてきたのであり、その営為は現在も進行中である。このようなキーワードから、展示をとおして、中国地域の文化を実感していただきたい。

生業セクション

## 自然環境に 対応した生業

野林 厚志

民博文化資源研究センター

中国地域は、東西南北にひろく西高東低の地勢のため、気温や降水量の差が多様な自然環境をつくり、これに応じて発達したさまざまな生業が人びとの暮らしを支えてきた。生業の中心は農業で、東北部のマメ、コーリヤン、華北部の春・冬コムギ、華中の水田一期作、華南の水田二期作と、高緯度地域から低緯度地域にかけて変化し、内陸部のオアシス農耕や山岳部の焼畑農耕のように自然環境に適応しているという特徴をもつ。西部平原や高原地域では遊牧も含めた牧畜が盛んで、北方や西南部の森林地域では少数民族による狩猟活動も見られる。また、海洋沿岸部だけでなく内陸部の湖沼や河川でも漁労活動が盛んにおこなわれている。

あらたな展示ではこうした多様な生業を、狩猟、家畜飼育、淡水漁労、農耕、米と麵のコーナーにわけて紹介する。狩猟では北方や西南部の森林地域の少数民族による狩猟用具、家畜飼育では遊牧や舎飼いに関連した資料を中心に展示する。淡水漁労では網や笊などの漁具を扱うほか、鵜飼いに用いられる道具を展示する。広大な内陸部をもつ中国地域において淡水の水産資源は非常に重要である。農耕は水稲、小麦、その他の雑穀、豆類といっ

民族楽器セクション

## 多様な民族楽器

伊藤 悟

民博外来研究員



徳宏タイ族の太鼓の踊り

チワン族の高床式住居セクション

## 高床式住居の変貌

塚田 誠之

民博研究戦略センター

筆者は広西チワン族自治区の西部や北部の農村で調査をおこなうことが多い。一九九〇年代前半期のころには、区都の南寧市など大都市の郊外の平野部を過ぎて山間部にかかる、車窓から木造高床式住居が見え始め、調査地に近づいた実感がわいたものだった。しかし、とくに二〇〇〇年代以降に農村の景観は大きく変化した。チワン族の若者は一九九〇年代半ば以降、沿海部に出稼ぎへ行き現金収入をえるようになった。貯金ができる、まず家を新築するのが流行した。その流行の波が農村のいたるところに押し寄せ、あつとつとコンクリート・ブロックの家に変化していった。

高床式住居は、一階に家畜を飼い、二階に人間が住む形式である。一九三〇年代や五〇年代に、「人畜同居」は不衛生でよくない習俗だという理由で、政府が畜舎をわけるよう推進した。しかし、多くの人びとは依然として高床式住居に住み続けた。流行の力は、かつて政策では変えることができなかったものを変えた。展示場で二階部分の一部を再現した高床式住居も、最近、働き手である一家の主が出稼ぎマナーを用いてコンクリートのビルに変えてしまった。

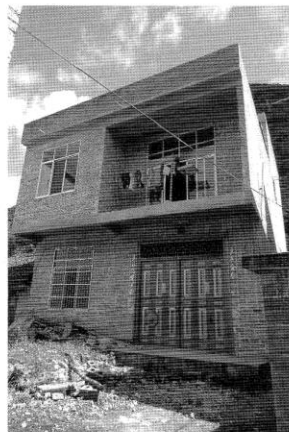


た主食の基本となる作物を栽培し、収穫、加工するための道具を中心に展示する。また米と麵のコーナーでは、製麵器や麵うちの道具、なれずし作りの桶おけといった、米と麵の文化が育まれてきたことを紹介する。

新展示では、代表的な楽器を厳選して、楽器の構造的な特徴や通時的な変化がわかるよう心がけた。

楽器は、発音機構や形状によって奏者の身体や演奏を束縛する一方、理想的な音を実現するために改造が重ねられたり、制約を逆手に取った演奏技法が編み出されたりしてきた。たとえば、「蘆笙」は民族によってさまざまな演奏方法があり、ミャオ族の場合は、はしごに登ったり踊ったりしながら演奏するなど曲芸的技術を研鑽けんけんしてきた。

音に対する追求は多くの改良楽器からうかがい知ることができるだろう。中国音楽界はソ連の影響を受け、一九五〇年前後から管弦楽団の結成や舞台演奏を目的とした楽器改良運動がさかんになった。その過程で数多くの創作楽器も生み出された。改良された少数民族の楽器のなかで代表的なものが「ひょうたん笛」である。一九五〇年代に改良され、二〇〇〇年ごろにはタイ族の眼徳全氏ゲンタクゼンによって普及活動が展開され、以来、中国全土で流行するようになった。現在は土産物として各地の空港でも売られ、学校教育にもとりいれられるほど人気を博している。新展示では、新旧さまざまな笛を展示しており、異なる時代の意匠や構造の変化を見比べることができる。展示された楽器のなかには、楽器演奏や制作などを収録したビデオテープ番組がある。また、当館図書室には関連する映像と音響資料が所蔵されている。これらの資料をぜひ活用して、音色や演奏技法を体験してほしい。



新築された住居 (2012年撮影)



改築前の高床式住居外観 (2007年撮影)

ただし、政府や学者は、一部の観光地で高床式住居の保存を訴えている。それが景観に合い、観光客が喜ぶからだ。このため観光用に高床式住居が保存されている地域もある。展示場で高床式住居に入って、この伝統的な住居における人びとの暮らしぶりを実感していただきたい。

装いセクシオン

# おしやれ心がいっぱい

よこやまひろこ  
横山 廣子

民博民族社会研究部



ペー族の熟年女性の宗教活動での装い(2007年、雲南省大理市)

日本の約二六倍の国土に、さまざまな民族が生活する中国。装いのセクシオンは、民族衣装をとおして多彩な中国を体感してもらう展示と位置づけられた。そのために従来は西

工芸セクシオン

# 土の香りの モダンアート

はんぶん  
韓敏

民博民族社会研究部

中国では、農村に暮らす人びとの描く彼らの日常生活や伝統的行事を題材にした絵画を「農民画」とよぶ。一九五〇年代から七〇年代にかけて社会主義集団化や文化大革命などに応じて生まれたプロパガンダ・アートであった。改革開放以降、市場経済の原理とグローバル化を背景とする中国国内外の観光業と文化産業の影響を受けて、農民画は、土の香りのモダンアートとして評価され、人気の観光土産となっている。

中国には農民画の中心地が多数あり、陝西省戸県、山東省日照市と上海市金山区は三大農民画に数えられている。三月二〇日以降の中国地域展示場には、上記の地域のほかに少



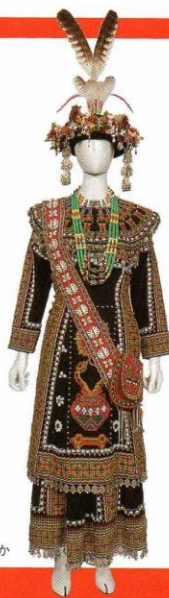
農民画「菜菔採りの娘」 曹秀文制作 地域：上海市  
標本番号H0268425

台湾原住民族セクシオン

# 古きを温めて 新しきを創る

のぼやしあつし  
野林 厚志

民博文化資源研究センター



台湾の人口の八〇パーセントあまりが、一六世紀以降に台湾に移住、定着してきた漢族系の本省人、一四パーセントほどが第二次大戦直後に大陸部から国民党政権とともに移住してきた外省人とよばれる人たちである。本省人には福建省から移住してきた閩南人と福建省ならびに広東省から移住してきた客家の人たちが含まれている。これら漢族に含まれないのが、台湾原住民族とよばれるオーストロネシア系先住民族である。多様な民族で構成される台湾は、民族集団を意味する「族群」ということばを用い、「族群社会」と表現されることがある。

あらたな展示では原住民族工芸の伝統と現在を中心で紹介する。民博には、日本統治時代(一八九五〜一九四五年)に収集された台湾原住民族に関する道具や衣服が収蔵されている。これらは、学術資料として研究に活用さ

バイワン族の衣装(女性用) 地域：台東市 標本番号H0274449ほか



南部に偏っていた民族衣装を全国規模に広げること、また、マネキンを使い、頭部から足元までの装いをトータルに見せることになった。収蔵資料を全面的に見直して選定するため、収蔵庫通いが始まったのだが、これがなかなか大変であった。

土地の気候風土や文化的特色を反映していて、どこかに魅力のある衣装を選ぼうと心がけた。地域や性別にバランスがとれていることにも注意を向けた。改めて点検すると、素晴らしい衣装なのに何かがひとつ欠けていて、トータルな装いを完成できないというケースがあった。同じ民族・地域の他の資料を慎重かつ徹底的に検討し、ようやく不足を埋める資料に辿り着いた場合もあった。

そういうプロセスを経て展示場に並ぶことになった民族衣装。今回は男性の装いもかなり展示できた。斬新で豪華なアクセサリーや緻密な手仕事には、是非、眼を凝らして、作り手のセンスを感じ取っていただきたい。チャン族とロツパ族の衣装は、八〇年代初めに収集されて以来、初めて目の見ることになった貴重な資料である。女性の衣装は若年者用が大半を占めるなか、ペー族の衣装は、孫ができた熟年世代が着用するものである。デザインに、配色に、そして着こなしに、着る人のおしゃれ心を見つけていただければ幸いである。



ロツパ族の衣装(男性用) 地域：チベット自治区ニンティ地区 標本番号H0087159ほか

少数民族の農民画も展示される。

年画、切り絵、刺繍、かまどの装飾などの伝統技法を取り入れた農民画は、単純で平面的な構図とあざやかな色彩が特徴である。「薬草採りの娘」は、上海市金山区中洪村の曹秀文の作品である。筆者のインタビュの際に、曹さんは、「一九七五年韓和平などの有名な画家たちが農民による再教育を受けるために、上海から村に来たときに、絵の描き方を教えてくれた」と語った。「薬草採りの娘」は、彼女の二〇歳のときの自画像である。人民公社の「はだしの医者（農村で養成され、農業に従事しつつ医療に当たる）」の助手だった曹さん、自ら薬草を採ってきて漢方薬をつくっていたので、労働模範として表彰された。このように、社会主義革命のなかで生まれた農民画だが、現在、農民たちの暮らしと歴史記憶を表現している。



金山農民画のルーツ、かまどの装飾(2010年、上海市金山区)

れるだけでなく、原住民族にとって、祖先の営みを伝える文化資源として注目されている。伝統文化を継承しながら、今を生きる自分たちの文化を創りだすうえで、こうした学術資料が参照されることが少なくないからである。

今回の展示では日本統治時代に収集された資料に加えて、全面に刺繍がほどこされたパイワンの壮麗な衣服、色鮮やかなタイヤルの織布でつくった衣服、伝統的な工法が再現されて作られたクヴァランのバナナ繊維製衣服といった、原住民族工芸の最前線で創られている工芸品の数々を展示する。とりわけ、タイヤルの織物は制作者が自ら民博の資料の精緻な調査を経て制作した貴重なものである。



## 宗教と文字をめぐる 文明・文化の展開

横山 廣子

民博 民族社会研究部

中国を舞台とする文明・文化の交流と展開は複雑である。宗教と文字をとおして、多少なりともそれを俯瞰しようというのがこの展示である。

中国の宗教には仏教、イスラーム、キリスト教の世界宗教のほか、民俗宗教ともいえる道教、さらには儒教、そしてシャマニズムやアニミズムの要素の色濃い土着的信仰がある。

たとえば仏教には漢字、チベット文字、タ伊(傣)文字の三系統の仏典が存在し、宗教実践面でも違いがある。漢訳された仏教は、民間では儒教、道教と習合した形で信仰され、漢族とその影響を受けた少数民族に広まった。チベット仏教はチベット族のみならず、元の皇帝が帰依し、次第にモンゴル族全体へも浸透した。元と同じく非漢民族・満族の清の皇帝は、それを信奉して自らを元の後継者として権威づけ、チベット仏教寺院を各地に建てた。また、中国西南端に住むタイ族やブーラン族が信仰する上座部仏教の文化圏は、東南アジアへと繋がっている。

他方、イスラームを信仰する人びとは、アラビア文字で記されたコーランへの信仰を核に、儒教・仏教・道教とは一線を画す大文化圏をなしている。西南部のイ族やナシ族では

## いくつもの「故郷」の融和

陳 天璽

早稲田大学准教授・民博 特別客員教員

中国地域展示場の空を悠然と舞う龍が出迎える華僑・華人コーナーに入ると、すぐに大きな剪纸(切絵)「望郷亭」が目につく。これは中国民間芸術家トップ10と評された鄭蝴蝶の作品で、王瑞豊・林珠江夫妻が二〇〇五年北京百望山森林公園に寄贈した亭をモチーフとしている。本館で華僑・華人コーナーが設置されることを旧友である神戸華僑・陳耀林氏から聞きつけ、二〇二二年に遙々アメリカより来日し作品を寄贈してくださった。

王夫妻のご両親は、日本の占領下にあった台湾から日本に移り住み、王夫妻は日本で生まれ育った。文化大革命のころ、大学を卒業してまもなく、「祖国」建設のため北京に渡り、中国国際放送日本語部や北京農業大学、中国科学院遺伝研究所などで働いた。その後一九七九年、アメリカに移住した。

二〇〇二年北京を再訪した際、二十数年前、職場から見えていた秃山が今では緑に蔽われ、美しい森林公園となっていた。散歩している道中に目にした碑文から、百望山がかつて中国ゲリラ部隊と日本軍が戦った前線であったと知った。熱い思いに駆り立てられた夫妻は、昔日の戦地に「望郷亭」を寄贈することに決めた。

「人は誰でも故郷をもち、そこに思いを馳せている。どこの国籍か、どこの国民かに関係なく、わたしは人類の平和を願って建てた。その剪纸を民博で展示し

## 花嫁の輿、花轎

韓 敏

民博 民族社会研究部



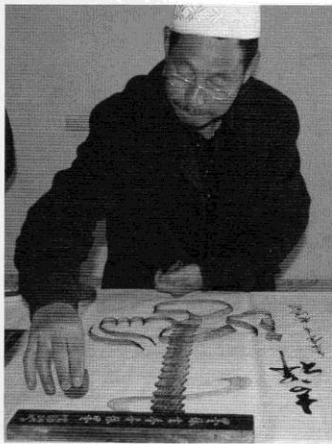
移動中の花嫁の輿(2008年、安徽省宿州市)

中国の農耕文明は黄河と長江流域で育まれた。その文明を担ってきた最大の民族集団である漢族の祖先祭祀や婚礼をとおして、中国人の生死観や宇宙観を体験していただきたい。

「輿」とは、人を乗せて肩で担いでいく輿のことで、中国で古くから使われてきた乗り物のひとつである。華やか



教会の落成式で歌い、踊るミャオ族(2012年、雲南省富民県)



アラビア文字書道をする馬慶鴻氏(回族)  
(2012年、雲南省大理市)

民族固有の儀礼が多数発達し、儀礼を司る者が伝承する独特の文字が生まれた。一九世紀以降のキリスト教の布教は、文字をとまなう宗教を信仰する人びとのあいだでは、あまり成功しなかった。しかし、文字をもたない西南部の少数民族の一部で集団的改宗が起こり、彼らの言語を表記するために宣教師が創った表音文字が普及したのである。



切り絵「望郷亭」 鄭蝴蝶制作 地域：アメリカ合衆国 標本番号H0274930

てもらえるのは望外の喜びだ」とやさしい笑顔で語った。口数少ない王氏のことばからは、いくつもの国を渡り歩いた華僑・華人に共通する融和の想いが見え隠れする。  
リニユアルで華僑・華人コーナーが加わり、中国展示場とはいえ、中国地域の文化に関連する資料収集の範囲が、お隣の国からいっきに世界各地に広がった。集めた資料の奥にある移民たちのライフヒストリー、時間的・空間的連続性、そして多文化の融和をぜひ体感していただきたい。

な輿を意味する「花轎」は、実家で待つ花嫁を花婿が迎えに行くときに使われる。輿で花嫁を迎える漢族の風習は、南宋(一二七〇～一二七九)にまでさかのぼる。

中華人民共和国建国後の一九五〇～八〇年代、この風習は見られなくなつたが、九〇年代に入ると、遼寧や北京、上海、浙江省、武漢、南京、宿州、蘭州、昆明などで古い様式の結婚式が復活し、輿も再び作られるようになった。

花嫁の輿には、担ぎ手の数が二人あるいは四人、八人の三種類がある。展示されているのは四人で担ぐ中型で、安徽省宿州市在住の輿職人、徐子松(八五歳)が二〇〇八年に作製したものである。輿の枠組みは竹で作られ、龍鳳などの吉祥図案が施された赤の錦やガラス板が枠組みを飾っている。ガラス板の裏には、中国の四大美女(西施、虞美人、王昭君、楊貴妃)の画像が貼り付けられている。

輿の上の天蓋には、厄払いの鏡や不老長寿の仙人、歴史上の英雄(三国時代の劉備、諸葛孔明、関羽、張飛、趙雲、黄忠、宋代の穆桂英、楊宗保など)の張り子の人形が飾っており、めでたくにぎやかな雰囲気を出している。

輿で花嫁を迎える儀式は、にぎやかで車より費用が安く、環境にもやさしいため、各地で静かなブームとなっている。

2014年4月28日

王瑞豊 先生

拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたびは『月刊みんぱく』の刊行にご協力いただき、誠にありがとうございました。記事の掲載号ができましたのでお届けいたします。

王先生のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

敬具

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

国立民族学博物館 月刊みんぱく編集室

E-mail: gekkanm@idc.minpaku.ac.jp

TEL 06-6878-8368 FAX 06-6878-8429